
失敗

つちふる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

失敗

【Nコード】

N8454N

【作者名】

つちふる

【あらすじ】

五分で読める短編作です

まともに生きることには失敗。

やけになつて人を殺そうとして失敗。

自分を殺そうとして失敗。

もういちど懸命に生きようとして大失敗。

「まったく何て人生だろう！ やることなすこと、全て失敗に終わるんだからな！」

どうでもよくなつて、銀行から全財産を下ろし宝くじを買った。
むろん、全てはずれた。

無一文になつたので公園でホームレス生活を始めようとしたら、
先住者がすでに住んでいて追い出された。

さあ、困つた。

行き場所がない。

生き場所がない。

仕方ないので、誰も通らないような路地裏にダンボールを敷いた。
ここで何日か過ごせば、そのうち飢え死にするだろう。それなら
それでいい。

死は大歓迎だ。

ところが、それも失敗した。

「ダンボールだけじゃ寒いでしょう。風邪をひきますよ」

親切な女性が毛布をくれた。

「これ、よかつたらどうぞ」

親切な青年が、パンと飲み物をくれた。

「家族と暮らすことになつたんだ。よければ俺の場所を使ってくれ」
年老いたホームレスが、冬でも過ごしやすい場所を譲ってくれた。
だから、僕は今日も生きています。

行き交う人々の声を聞きながら。

「あんだ、何のために生まれてきたの？」

「うわ、くせっ！」

「社会のゴミって本当にいるんだな」

「死ねばいいのに」

「あの、生きてくださいね。きっと良いことありますから」

「ねえねえ。人生のロスタイムを過ごすのって、どんな感じ？」

「俺、あんたみたいになっただら超スピードで自殺するよ」

「そこ、邪魔」

「百円やるから一発殴らせてよ」

自動販売機で買ったジュースは、血の味がした。

「ねえ、おじさん。これ、あげようか？」

ある日、少年がカプセルを差し出してきた。

「死にたがっている人にあげなさいって、父さんがくれたんだ」

それは透明のカプセルだった。中には白い粉末が詰まっている。

「毒なんだって。人が間違いく死ぬる量が入ってるって言ってた」

「そう」

「おじさん、死にたい？ 死にたいならあげるよ」

「さあ、どうかな。どうなんだろう」

わからない。今はもう、生きるのも死ぬのもどうでもいい気分だった。

カプセルを飲んで死ぬなら、それもいい。

カプセルを飲まず、このままぼんやりと生きていても苦痛はない。

どうでもいい。だから、

「君に任せるよ」

「うん。じゃあ、口を開けて」

言われるままに口を開けると、少年が舌の上にカプセルをのせてくれた。

「はい、飲んで」

そう言つて、地べたに転がっているペットボトルを渡してくれた。中身は水道水だ。

僕は水と一緒にカプセルを飲み込んだ。固く丸い感触が喉を通り過ぎて、食道を抜けていく。

ああ、これでおしまいだ。

じきに、苦しくなるのだろう。身体中がしびれて動かなくなるのだろう。

もうすぐ、世界が終わる。僕が死ぬ。

「おじさん。どうして泣いてるの？」

「うん。本当はね。僕は死にたくないんだよ」

「え、そうなの？ じゃあ、カプセルを出さないよ」

「いや、いいさ。大丈夫。僕は何をやっても失敗ばかりするんだ。

きつと、このカプセルだつて効かないよ」

「そうなの？」

「そうさ。きつと…… そうさ」

身体がしびれてきた。手が思うように動かない。息が詰まる。呼吸をしようとしても、空気が入ってこない。

身体が冷たくて、熱い。

「おじさん？」

ひどく心配そうな声。少年の顔がぼやけて見える。

ああ、死にたくないな。

失敗しないかな。

もし、これで死ぬことに失敗したら。

そうしたら、今度はちゃんと生きる努力をしよう。

何度失敗しても、生き続けよう。

「らね」

少年が何かを言ったけれど、聞こえない。

もう、何も聞こえない。何も見えない。

ああ、そうか。

僕は。

死ぬことに失敗することに失敗したのだ。

そう考えると、少しおかしい。

笑えてくる。

…そうだ。

笑おう。

最後の顔は笑顔にしよう。穏やかに笑っていいこう。
どうかな。

上手く笑えているかな。

もし笑顔でいられたなら。

それは、成功だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8454n/>

失敗

2010年10月19日11時32分発行